

# サウ-デ教会女性部会報

2016年 12月 N° 286



## 巻頭言

丹羽 昭男 師

「救い主の誕生と羊飼いの」

ルカ 2章 8〜20節

### 【1】序論

12月に入り、ナタールの月を迎えた。私たちのために救い主イエス・キリストが誕生された時である。そのニュースを一番はじめに聞いたのが羊飼いたちであった。

どうして彼らがその特権にあずかったのだろうか。

### 【2】羊飼いたちの態度

● もくじ  
 ● 巻頭言 「救い主の誕生と羊飼いの」 丹羽昭男師 (2)

● 救いのあかし  
 ● あかし 小野田幸子 (4)

● 「神様のお守り」 松茂良達子 (6)  
 ● 「出山富美子姉によせて」 長谷川美代枝 (7)  
 ● 「主にあつて」 長谷川美代枝 (7)  
 ● 晶中美恵子 (9)

● もしもし、お元気ですか？ 片山美枝子 (10)  
 ● 活動報告 長谷川美代枝 (14)

● 「きよしこの夜」誕生秘話 丹羽美香 (12)  
 ● サン・レモ支援バザー 丹羽美香 (12)  
 ● 個人消息／おしらせ 長谷川美代枝 (14)

### (1) 目を覚ましていた

時は夜であった。エルサレムの町の人々は眠っていた。しかし、羊飼いたちは羊を守るために目をしっかりと覚ましていた。だから、神は羊飼いたちに最大のニュースを知らせた。

### (2) 仕事に忠実

羊飼いたちは、自分たちに与えられた仕事である羊の番を忠実にしていた。全力を懸けてしていた。だから、神は彼らに救い主誕生のニュースを知らせた。

### 【3】救い主のところへ行く

(1) 最大のニュースを聞く  
 羊飼いたちは最大のニュースを聞いた。びつくり



した。しかも天使が現れ、主の栄光が彼らをめぐり照らしたので恐ろしくなった。けれども、彼らはしっかりとその喜びのニュースを聞いた。

(2) 主イエスのところへ行く

羊飼いたちは喜びのニュースを聞いて感動した。そして、そのニュースがその通りであるかどうかを知ろうとして、言われたところへ走って行った。そこには、言われた通り救い主が誕生されていた。

「4」羊飼いたちがしたこと

(1) 礼拝

羊飼いたちは救い主のところに来たとき、そこに平伏し心から礼拝した。神が天使を通して語られたニュースがその通りであったので、神を崇め、感謝

し、賛美をささげた。

(2) 知らせた

その後、羊飼いたちは喜びにあふれた。この喜びを自分たちだけのものにはできなかった。彼らはこの喜びのニュースを、『救い主誕生』という最大のニュースを人々に伝えていった。そうせずにはおれなかった。

「5」結論

私たちもそうしよう。「救い主が生まれた。あなたのために生まれた。どうぞ見に来てください」と喜びと最大のニュースを周りの人に知らせていこうではないか。



## 特集

救いのあかし とくしゅう



信仰の道へ導かれた  
お証しです

小野田幸子



受洗日 1947/9/21

私が、日本病院(現サンタクルス病院)の看護婦として病室勤務をしていたある日、検温のため病室に入った途端、喜びにあふれたご夫妻の笑顔に迎えられました。聞けば明日、奥様が退院されるとのこと。私も自分の事のように嬉しく共に喜びました。奥様から「いつも親切にしてくださいのに何も出来ませんが、お饅頭を買ってきてもらいましたから食べてください」と、差し出されました。「勤

務中ですから後で」という私に、続けて「気持ちですから一つだけでも食べてください」。そう言い終わられた途端、かけていた毛布を払いのけられたので、ご主人が驚き「どうしたの?」と近づくと、あつという間に召されてしまいました。あんなに喜んでいたので、今には亡き人になってしまった彼女。私はこのことを通して、へ人は何と儂いものだろう。何のために生きているのだろう。死んだらどうなるのだろう。生きる目的や死の問題を解決しなければと、真剣に考えるようになりました。

その後、戦争の影響で看護婦を辞め、子供たちに日本語を教えていました。すでにその頃には、主の深い摂理により救いの御手を差し伸べられ、林先生によって家庭集会をもたせてくださっていました。

とうじわたし かみさま そんざい あたま  
 当時私は神様の存在を頭ではよく理解していま  
 したが、心から信じる事ができずに悩んでおりま  
 した。その日も、悔い改めや祈りの事などで心が  
 重く、こんな気持ちで集會に臨むには耐えられず  
 「主を信じられるよう助けてください」と祈りなが  
 ら勤めに行く途中で、「汝心を騒がすな。神を信  
 じた我を信ぜよ」との御言葉が繰り返し繰り返  
 強く響いてきました。主はこの御言葉をもって私の  
 魂を全く打ち砕いてくださったのです。この私  
 のために十字架にかかり死んでくださり、永遠の命  
 を与えん為によみがえってくださったイエス様。私  
 は心の底から涙と共に全ての罪を悔い改め、神  
 の子としての確信が与えられ、あふるる涙は喜び  
 と感謝へと変わり、心から主を褒め称えることが

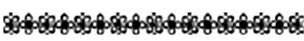
でききました。これは全く十字架の血潮による救いの  
 恵みでありました。その時から主に対する希望と  
 平安と喜びにあふれた新しき者へと変えていた  
 だきました。また、イエス様を信ずることにより、生  
 きる目的や死の問題も解決することが出来て感謝  
 でした。  
 長い年月には様々なことがありましたが、常に  
 王座となつて心の内に内住してくださる主に日  
 々、感謝しつつ、御名を崇めます。



# あかし



## 神様のお守り



今年は孫のアーニー(スエリー  
 の次女)の結婚式があり、一人で  
 沖縄まで行ってきました。皆に  
 驚かれましたが、行く前に  
 丹羽先生が、「松茂良さんの前に  
 も後ろにも横にも神様がいて、  
 いつも守ってくれますよ」と言っ

てくださったので、何も心配することはありません  
 でした。結婚式には各地から親族が集まり、ペルー  
 で生まれた初孫にも会えました。賑やかで良い式  
 になりました。そのアーニーにも来年の2月か3月

には、第一子が生まれる予定です。一時はスエリー家族  
 が同居していて大勢でしたが、皆それぞれの生活を  
 始め、主人を見送り、今は一人で暮らしています。  
 でも、寂しくも不安もありません。82歳ですが健康  
 にも恵まれ、やりたいことがいっぱいあって充実し  
 ているからです。毎日水泳で100メートルを泳ぐ  
 せいか、最近では風邪ひとつひかなくなりました。  
 仕事も続けられていますので、自分のお小遣いで旅行  
 にも行っています。子供や孫たちも何かにつけ優しく  
 気にかけてくれるので助かっています。一番有難い  
 のは、毎週、礼拝に交代で送迎してくれることで  
 す。また、我が家では毎週木曜日に家庭集會をも  
 っています。もう4年くらい経ちますが、親族20名  
 ほどが集まって、証しをしたり賛美したりしています。

その日は食事をいっぱいつくって皆を迎えます。とても嬉しく楽しい時間です。さらに来年はピアノを習い、讚美の伴奏が出来るようになったらと思っております。私は何にでも興味をもってやりたくなるのですが、その気持ちを子供たちは理解し応援してくれます。それなりに苦勞もありましたが、今が一番幸せです。



晩年に神様に救われ、続いて頑固だった主人が導かれ、孫の代までがみなクリスチャンで強い絆で結ばれていることに感謝してあります。明日も神様のお守りの中、出来ることを精一杯やらせていただけたらと願っています。

出来、主に感謝いたしました。また、各賛美歌の下段に書かれている聖書箇所を読み、デボーションをいたしました。これは1991年頃です。富美子姉は熱心で休まず、何時も一番のりでした。ポルトガル語の礼拝で歌われていた讚美歌も「日本語でありますか？」と聞かれ、子供さんたちと歌いたいと喜んで練習していた姿がまぶたに浮かびます。新聖歌の257番です。当時の讚美歌にはありませんでした。その他、255番「主はわが牧者」、332番「主はまことのぶどうの木」、169番「心を尽くして」。など、練習して礼拝の式順に組み込まれました。当時はコピーでしたから、新聖歌を使うようになってとても嬉しそうでした。また、富美子姉は多くの奉仕をなされ、喜んで捧げられました。「憩の園」への

### 出山富美子姉によせて



初めて富美子姉にお会いしたのは、ご主人のお母様を長谷川の母とお見舞いに伺った時でした。それから何回かお訪ねし、親しく話をするようになりました。

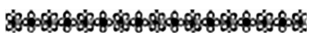
教会にはお義母様と共に礼拝に参加されました。お義母様が召された後も教会員として熱心に励まれました。

ある日、富美子姉は「神さまを毎日賛美したい。何かをしているときも賛美歌を歌いたい」と言われました。誰でも最初から讚美歌が歌えるということはありません。役員会で話し合われ、土曜日に希望者で礼拝で歌われる賛美を練習することになりました。幸いにも12人が集まり、毎週楽しく練習が

訪問も最後まで参加くださいました。互いに祈り合い、電話で一緒に賛美いたしました。この時、すでに足の痛みを訴えておられました。長らく病に苦しめられましたが、最後まで主を賛美し、感謝を捧げる方でした。訪問するたびに励まされ、「この賛美歌、あの賛美歌」と共に練習を重ねた曲を歌いました。声が続かず歌詞を低音で読むような時もありました。しかし、彼女の顔は輝き主に捧げる賛美でした。今は主のおそばで教会の為、私たちの為に祈っていて下さることを信じます。

『堅く立って、動かされることなく、いつも主のわざに励みなさい。主にあってむだでないことを知っているのですから』(8年前、電話で語り合った時の聖句)。  
ご家族の上に主のお慰めを祈りつつ。

# 主にあつて



晶中 美恵子

生まれながらにして甲狀腺ガンだという67歳の女性と今年初めに知り合いました。彼女は、「幼少時は戦後間もない頃で治療法や薬もなかった時代。医者に行っても間違いだらけの診察で、きつい放射線治療ばかりを強いられ被爆してしまつた」。挙句に、「10代

までしか生きられないだろう」と言われていたそうです。「そんな自分が今日も生かされている」と朝毎に神様に感謝し、「ありがとう」と言つて眠るそうです。そして、「教会へは行つてないけれど、日々、伴つて救いの手を差し伸べてくださる神様の存在を信じている」と言います。「私の400年前の先祖は、

つて最善になされることを毎日祈つています。

そして、そんな私の祈りにいつも心を合わせ、共に祈つてくれる藤木耐子姉。共に悲しみ、共に喜び、支え励ましてくれるけがえのない存在です。耐子さんにお願ひをして、週に一度お宅で聖書研究のお相手をしてもらつてから4ヶ月ほど経ちますが、二人で聖書の恵みを分かち合うひときは、私にとつてとても大切な時間です。それは毎日のデボーションの導きにもなつており、お蔭で今では声を出して祈れるようになり、さらにはその祈りがきかれてい

『どんな願ひ事であれ、あなたがたのうち二人が地上で心を一つにして求めるなら、わたしの天の父はそれをかなえてくださる。二人または三人がわ

当時のクリスチャンを迫害から助けてあげたらしい」という話もしてくれました。彼女とは初対面の時から長年の友人のような親しみを感じていました。今では唯一、教会以外で遠慮なく神様の話や証しを分かち合える相手です。彼女はいつも明るく前向きで、太鼓や俳句、本を書いたり旅行をしたりと積極的です。「困つた人を助けたい」とボランティアアも意欲的に引き受けています。「毎日風邪をひいているよう」だと言う辛い症状のなか、身も心も奮い立たせ頑張つているその姿に会う度に感動し、背後におられる神様の御業に感嘆しています。また引き合わせてくださったこの出会いに心から感謝しています。出来たら彼女を教会へお誘ひしたいと願ひますが、神様の豊かなお恵みと御心によ

たしの名によって集まるところには、わたしもその中にいるのである』 (マタイ18章18〜20節)

もしもし、  
おげんき  
ですか？



— 電話でお証しと近況をうかがいました —

片山美枝子 姉

7人兄弟の5番目に生まれた私は、とても可愛がられ、何の苦労もなく育ちました。しかし、結婚後、6人の子供に恵まれながら、主人に「お前が産んだ子供なんだから勝手にしろ」と言われ、夫に頼ら



ず子育てをするのは本当に大変で必死でした。当時、  
 その苦勞を誰に話しても分かってはもらえませんでした。  
 した。そんな中、仏教の家庭に育った私でしたが、  
 幅広くいろんな書物を読んでいるうちに、「神様は  
 ただお一人だ」と分かりました。さらには、「この子た  
 ちは私の子供ではなく神様の子供だ」と知って気持ち  
 ちが安らぎ、きつと神様が育ててくれると確信しま  
 した。その通りに健康で優しく素直に育ってくれ、  
 それぞれキリスト教にすんでくれました。彼らが  
 一人前になってから、キリスト教についてゆつくり  
 勉強し始め、神様を自然に感じるようになってゆ  
 きました。しかし、「何のために洗礼を受けるのだろ  
 う」と不思議に感じていました。ただ、もつと神様の  
 お話しが知りたいと思い、嫁がボ語部へ通うサウー

が出来なくなっています。ですから、日曜礼拝にも  
 なかなか伺えずにいます。でも私は聖書が大好き  
 で読んでいるときに一番楽しいひと時です。毎日、  
 どの箇所を読んでも、いつもお答えをいただいている  
 ようで納得したり感動したりしています。上手な祈  
 りはできないけれど、いつも心で感謝をささげてい  
 ます。そして、すべての苦勞も神様が私を試された」  
 のだと思っ感謝しています。これまでの経験、苦  
 しみのすべてにおいて、神様の二計画の道を歩んで  
 いたことが分かって、有難くもあり嬉しくなります。  
 この歳になっても健康が与えられ、聖書の勉強も  
 続けられていますし、心配事もなく、身も心も自由  
 です。「私ほど幸せ者はいない」と思えるくらい  
 感謝な毎日を送らせていただいています。

デ教会へ伺うことにしました。そして、私がす  
 がったというより、神様の方が「美枝子さん、いら  
 っしゃい」と呼んでくださった感じを受け、素直に  
 洗礼へと導かれました。洗礼後は、より一層に見守  
 ってくださっていることを強く感じています。一人暮  
 らしのなかで、「いつも傍にいてくださっている。一人  
 じやない、大丈夫」という安心感に包まれています。  
 時々、部屋の上や横を探してしまいうくらい身近な  
 存在です。自分  
 だけではなく、子供、孫に至  
 るまでその見守りがあるのは  
 本当に感謝です。  
 88歳の今では、子供に心配  
 をかけたくないの、一人歩き



活動報告

サン・レモ支援バザー

参加について

／丹羽美香師



12月にボ語部会堂において、サン・レモ支援バザ  
 ーが行われるようになって今年第2回目になります。  
 ます。このバザーで出品できる品物は手作り品に  
 限られています。

このバザーの目的はフェアベラ地域の伝道と、  
 設立したひまわり学園支援の為であり、私たち  
 サウーデ教会日語部女性たちもその趣旨に賛同し  
 て参加するようになりました。

第1回目は牛乳パックで花器（日語会堂のピア

ノの上に飾ってある物)作りと和紙を使った「押し絵の人形」「箸置き」その他、小物品。

第2回目の今年12月3日(土曜)は、和紙を使用して「カード」と「押し絵」、その他、会員の皆様方から献品して頂いた手作り品を出店しました。和紙や小物は各自が持っていたものを提供しました。収益金の十パーセントを寄付する事となりました。ですが、女性部は今回も今までと同様に、材料費を除く全額を支援金として渡すことができ大いなる喜びと感謝でした。

今年は社会の景気の悪さが影響したのと給料前という日時の為か客足が少なく、どのバンクも暇そうでした。そうは言っても、私ども年配組は、一つお求めいただく毎に感謝し喜び

作品を仕上げていく毎に、色々な知恵と工夫が沸き上がり「良い頭の体操になるね」と話し合い、集会とはまた違う別の楽しい交わり「信仰の友・親交の友」としての縁を深めることができたのも大いなる収穫でした。お互いが一層身近になった感じがしました。

この紙面をお借りして、教会女性部の方々全員にもう一度お礼を申し上げます。実際に作品作りに参加された方々、品物を献品して下さった方々、この奉仕の為に祈りして下さった方々、当日販売に当たって下さった方々、皆様のご協力があったて全員参加でなされた働きでした。ありがとうございます。来年もこのバザーに協力できたらと願っています。

に満たされました。また女性部の方々もよく買ってくださいました。

今年にはバザーの準備を9月21日から、水曜の祈禱会後に始めました。毎回7〜8名の方が残って奉仕して下さった。特に次の姉妹方は殆ど毎回がんばって作品作りに協力してくださいました。  
はだあね むこだかあね みずがみあね  
原田姉・向高姉・水上姉・  
おおのあね あべあね  
大園姉・阿部ミチエ姉・  
すずきあね みやたにあね よしかえあね  
鈴木姉・宮谷姉・吉加江姉  
・蛸井姉・細川姉方です。  
ありがとうございます。



最後に一言。バザーが終わった翌日の礼拝前に、バザーの為に作った「スプーンセット」を会堂横の通路を通るポ語部の幼少年の子供さん達に「日語部のおばあちゃん達からナタールプレゼント」と言って88人(教会先着順)に渡し、お子達や親御さんたちから喜ばれたことをお伝えします。



1818年12月14日。  
オーストラリアのオーベン  
ドルフという小さな村の  
聖ニコラス教会のオル  
ガンの前で、村の学校の  
校長先生で、教会のオ

ルガニストをしているグループはすっかり困り切っていました。なぜなら、ネズミがオルガンの空気袋に穴をあけ、ペダルを踏んでも音が出なかつたからです。

「今夜はクリスマススイブなのに伴奏がないなんて。」すると、モーア牧師が「実は、こんな詩を作ったんだが」と言つて彼に見せました。ハイエスさまがお生まれになつたのも、きつとこんな静かな夜だつたかもしれないと、雪の夜道を歩きながら、山のふもとの小さな村のあたりを見て作つた詩でした。「これにギターで伴奏を付けてみたら」と提案したモール牧師。その詩のすばらしさにすつかり感激したグループは、急いで家に帰り作曲しました。



その日の午後、12人の少年少女が

## 個人消息

\*召天者

下山富美子姉 (享年84歳)

2016年 9月27日

お慰めがありますようお祈りいたします。

\*受け入れ式 2016年12月18日

●川崎智江子姉が新しく加えられました。

「ナタール礼拝という大事な日に受け入れてくださり、心より感謝いたします。何もわからない者ですので、皆様どうぞご指導くださいますように。また、信仰者として人生の締めくくりが出来たらと願ひ、主に導かれ歩んでまいりたいと思つていますので、何卒よろしく願ひいたします。」

◇ <http://saudekyoukaijindo.com/> ◇ Facebookで、礼拝メッセージ動画がご覧になれます。

集められ、ギターの伴奏に合わせ練習をしました。その夜、大勢の村人たちが教会に集まる中、合唱隊はこの日誕生したばかりの「きよしこの夜」を賛美しました。人々はその美しいメロディと詩にじつと聞き入り、オルガンなしの素晴らしいクリスマス礼拝が行われたのでした。

この楽譜はどのようにして今日まで伝えられたのでしょうか。春になり、穴のあいた空気袋を修理するため、ジレルタからやつて来たオルガン修理屋の目にとまりました。彼もまた、その美しいメロディに感激しモール牧師からもらい受け、家に持つて帰りました。こうして、この讚美歌はジレルタの谷間から歌い広められ、世界中で歌われるようになりました。

長谷川美代枝

## おしりか

\*元旦礼拝／連盟主催

・2017年1月1日(日曜日)午後3時から

・ホーリネス教団 リベルダーデ教会にて

・説教者／平田ルチ師(ホザナ教団)・通訳有

\*新年聖会／伝道局主催

・2017年1月8日(日曜日)午後2時から

・サウデー教会 日語部にて

・説教者／大嶋武郎師

すべてが整えられ最善に成されますようお祈りいただき、ぜひご出席くださいませ。

※あとがき※

迎えます年も主の豊かな恵みと祝福がありますようお祈りいたします。どうぞお健やかに。(おばら)

